

伊那から岡谷へ

ここでコロナが小康状態になったこともあり、この土日、小旅行に行ってきました。

まず、朝一番の高速バスに中央道日野から乗って、伊那・飯島へ。8月からたまに行っているわら細工道場に行きました。毎年12月にワラからの正月飾り（注連縄）をつくっているのですが、そのバリエーションを増やそうと、サンダラポッチ（棧俵＝俵のふた・底）づくりを教わり、練習しました。でも、なかなか思うようにできません。



15:23 飯島発の飯田線に乗って駒ヶ根まで。この近くに前に研究会でお世話になった元神戸大の雑草の専門家、I先生が住んでいるので会いに行ったのです。リタイアされて故郷の伊那に戻られ、村の教育委員をしながら、小中学生と自然観察会などの活動をされています。たまたまこの日、庭で飼っている「スガシ」（クロスズメバチ）の巣を取り出そう、と地元の仲間がやってきたので、それを見学。この地域では、この蜂の成虫・幼虫・サナギを煮込んで食べるのが当たり前だとか。さすがにその日捕ったものは無理なので、冷凍してあった去年のもの（写真→）を肴にそのお仲間も入れてお酒を飲みながら、スガシ捕りの話なども聞きました。



8時に先生の家を出て、すっかり暗く寒くなった田んぼの中を宮田駅まで歩き、20:38 発岡谷行列車に乗ります。が、飯田線は8月の大雨で、伊那新町～辰野間がいまだに不通、そこで代行バスに乗り換え、辰野からまた列車に乗って22:32 岡谷着。この日は、岡谷駅前のビジネスホテル泊です。

翌、日曜日、駅前でレンタサイクルを借り、蚕糸博物館に向かいます。岡谷は日本の機械製糸が花開いたところ。岡谷の蚕糸博物館は、30年以上前に訪ね（リニューアル前の）、当時の館長さんに「繭から糸をとるってどうやるんですか？」と質問し（生糸は繭から、という知識はあったものの、実際どうやって糸をとるのか、全く知りませんでした）、半日つきっきりで、生糸のつくり方、古代から近代（『あゝ野麦峠』の時代）そして現代までの繰糸の道具・機械の使い方など、教えて（その時代ごとの道具・機械がすべて展示されています。富岡製糸で使われたものも）もらったところです。



当時は、館長さんに紹介してもらって、近くに残る宮坂製糸の工場を訪ねたのですが、2014年に博物館がリニューアルされたときに、その宮坂製糸が博物館に併設（写真）となり「シルクファクトおかや」となって、糸をとるホントのようすも見るできるようになりました。その工場をきりもりするTさんにも久しぶりにお会いして、お話が聞けました。